

役員所感

副理事長 中川雄一郎

東京は原発の余波、イスタンブールは世情不安、マドリードは経済危機。3都市と言うより、それぞれの帰属する社会がスポーツ界に課した制約は本来「長所」を競い合うべき2020年五輪招致レースを「短所」の叩き合いへと変質させた。それでも招致の本質を貫いた都市があったとすれば、それは東京ではなかったでしょうか。我々も多くの人々と共に、青年会議所運動の本質を更に追求しコンセプトをより明確にしなければなりません。

1964年の第18回夏期オリンピック東京大会の前年に、高田へ青年会議所の明かりが灯り創始の想いから志へ、気概と誇りを託され半世紀。まずは、連綿と続く運動の歴史を紐解きながら、希薄になりつつあるJC運動の本質や独自性を共に学び、感じる事の出来る涵養の場を創出する事が必要だと感じております。また、無機的な議論から木を見て森を見ずではなく、糸を売って縄を買う事のないように、我々の意志による総合力と相互力を高めながらも有機的な戦略とブレない戦術を組織に訴求したいと考えます。さらに、真摯な情熱と言う価値観を伝播しながら、この上越地域に住み暮らす人々と共に、今この地域が露呈しつつある様々な問題や歪みに対して、我々は真剣に向き合うべき時に来ていると言う認識を改めて深めなければと感じております。同時に、公益社団法人の組織として「かたち」を探求し、青年会議所としての「しくみ」を追及しながら、短所の叩き合いへと変質する事なく青年・JAYCEEらしさを希求したいと思います。そして我々の運動が見据える、新たなプラットフォームを共に創造する勇気と決意を共有してまいります。

次なる革新は我々の意志によるものです。地域も選択と集中を進めて、インフラを集積し、コンパクトでサステイナブルなまちづくりから利便性の高い魅力ある地域を創造しなければなりません。「進化から進歩へ」その進む歩みは「あなたの意志が創る未来」です。